



技の肖像

土を練り、状態を整える三浦征太郎さん



1. 絵付けをする三浦早苗さん。濃い青色を基調とした草花の絵柄や唐草模様も切込焼の魅力のひとつ 2. 伝統を受け継ぎつつ独自性あふれる三浦陶房の切込焼 3. 轆轤を回しながら粘土を器に造形していく

問い合わせ
切込焼 三浦陶房
〒981-4401
加美郡加美町宮崎字中野 1-30
TEL 0229-69-5152
http://www.miura-toubou.jp/



切込焼 きりごめやき

〈加美町〉

仙台藩の御用窯として江戸時代中期から後期に隆盛を極めた切込焼。白い生地に濃い青色の染付が特徴の上質な藩献上用磁器のほか、味わい深い民衆向けの陶器も多く焼かれた。明治時代に入ると急速に衰退し、いつしか窯は廃絶。1990年に旧宮崎町のまちおこし事業の一環として切込焼の復興が行われ、現在に至っている。

「とにかく今はものづくりが楽しい。世の中の人が見たことがない、面白いと感じてくれるものを作りたい」と話すのは、この地で作陶に励む三浦征太郎さん(25)。母早苗さんとともに亡き父征史さんが開いた窯を守っている。

専門学校を卒業後、茨城県つくば市で人工衛星を組み立てる仕事をしてきた征

太郎さんは「最初から最後まで自分の力だけで、形あるものを作りたい」と陶芸の世界に飛び込んだ。実家は陶房を営んでいたが、すでに他界した父に教えを乞うことはかなわず、せともの「発祥の地」愛知県瀬戸市で1年間修業を積んだ。

器の胴に波打つような造形を施したり、底が接する高台を螺旋状に削ったり。征太郎さんは轆轤を回すと、感性の赴くままに粘土を器の形にしていく。

「辣斐型の徳利など、切込焼には伝統的な器の形があります。そうした伝統も意識しつつ、これからは新しい形を追求していきたいです」

故郷に戻ってもうすぐ3年。型にとらわれない若き陶芸家の情熱が、陶芸の里に新しい息吹をもたらそうとしている。

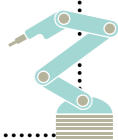
特集 業界の勉強

業界の未来を拓く 最新技術・独自技術

「業界の勉強」では、仕事図鑑で取り上げた業界ならではの知識や資格などについて解説します。今回は、最新技術や独自技術の広がりについて紹介します。

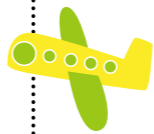
このほか、厳しい規格を満たさなければならぬ医療・福祉機器においても、手術器具や義足といった製品で、実用化に向けた研究が進められています。

産業用ロボット技術 より複雑に、より扱いやすく ものづくりの自動化・無人化の実現



ものづくり業界は、技術革新や独自技術の開発によって進化・高度化しています。今回の仕事図鑑で紹介した最新技術や、独自技術もさまざまな業界や分野への応用が期待されています。

炭素繊維複合材料 より軽く、より強く 金属に代わる新材料として



機体の軽量化による燃費向上や高速化を可能にする新材料である炭素繊維複合材料は、航空機の標準材料としての地位を築きつつあります。さらに、電気自動車や燃料電池車の普及とともに、車体の軽量化が進められている自動車分野でも、大きな期待が集まっています。

より高度なプログラムを組み合わせ、産業用ロボットへ複雑な動作を命令することができ、現場の状況に的確に対応するためには、「汎用性が高く扱いやすい」「ロボットテイミング」の技術開発がカギを握っています。

単結晶製造技術 よりキレイに、より大きく エレクトロニクス業界を進化



分子や原子が規則的に並んでいる単結

仕事図鑑・用語解説

炭素繊維 →P.03

炭素の含有量が90%以上とほぼ炭素だけでできている繊維のこと。アクリル樹脂や石油・石炭からとれる有機物を特殊な製法で蒸し焼きにし、炭素以外の物質を取り除いて作ります。

鉄と比べて重さが約4分の1であるにもかかわらず、10倍の強度を持ち、腐食や疲労、化学物質にも強いという特性があり、金属に変わる材料として注目を集めています。

機能性材料 →P.11

材料そのものが持つ物理的・化学的特性を使って、ものに機能を発現させるための材料のこと。

例えば、光をあてると硬化する樹脂が印刷用インクや歯科用材料に用いられ、透過性や屈折率が高い樹脂が光学レンズや光ファイバに用いられ、半導体以外にもさまざまな分野の製品に使われています。



※発熱時、一定の間隔で電圧を下げ、温度が正常範囲で、温度や電圧の変化への安定度が高い。通信機や水晶時計などに用いられる。

晶は、優れた電気特性や光学特性などを持っており、さまざまな電子機器や精密機器に用いられています。

ICなどの集積回路の基板に使われるシリコン単結晶をはじめ、増幅器にはヒ化ガリウム単結晶、発振器には人工水晶といった単結晶が使われています。さらに、医療分野でもCTスキャナやPET(ポジトロン断層装置)などの検査機器に単結晶材料が内蔵されており、単結晶の需要が高まっています。

現在、純度の高い単結晶材料を安定して大量生産するための技術開発が進められています。

3Dプリンタ技術 より精密に、より思い通りに あらゆる立体造形を可能に



データをもとに樹脂などを加工して立体造形する3Dプリンタは、これまで工業製品の試作品製造に使われてきました。

現在は性能が飛躍的に向上し、より精密な形状を再現できるようになりました。そのため、工場を使う治具や自動車のエンジン部品の鋳造、ロケットエンジン部品などの製造に使われるようになってきました。

生産性の向上や装置の大型化など、クリアすべき技術課題もありますが、未来のものづくり産業を担う新たなツールとして今後も技術革新が加速していくことでしょう。